

平成 30 年度第 1 回逗子市スポーツ推進審議会 議事録

- 日時 2018 年（平成 30 年）7 月 6 日（金）午後 3 時～4 時 55 分
- 場所 逗子市役所第 2 会議室
- 出席者 （敬称略、順不同）
大河内誠（会長）、佐久間健（副会長）、宮川光男、金子博暢
- 欠席者 村田祐子
- 事務局 文化スポーツ課：翁川担当課長、鈴木主任、森主事
- 公開の有無 有
- 傍聴人の数 0 人
- 資料

事前配布資料

- 資料 1 平成 29 年度第 2 回逗子市スポーツ推進審議会議事録（案）
- 資料 2 平成 29 年度逗子市スポーツ推進計画評価調書（案）
- 資料 3 平成 30 年度 逗子市教育委員会 点検・評価に関する報告書（案）
- 参考資料 1 平成 29 年度逗子市スポーツ推進計画評価調書（案）審議会による意見の
事前送付について
- 参考資料 2 逗子市スポーツ推進審議会条例
- 参考資料 3 平成 28 年度逗子市スポーツ推進計画評価調書
- 参考資料 4 スポーツの祭典 2017 事業実績報告書
- 参考資料 5 平成 29 年度 逗子市教育委員会 点検・評価に関する報告書 p23～p34

当日配布資料

次第

名簿

- 資料 4 平成 29 年度逗子市スポーツ推進計画評価調書（案）
（審議会委員コメントまで記入）

参考資料 6 平成 29 年度逗子市スポーツ推進計画進捗管理表

- 記録 森主事 2018 年（平成 30 年）7 月 6 日記録

開会

定数の確認

資料の確認

自己紹介

大河内会長（挨拶）

昨年度に引き続き、今年度も会長を務める。逗子市スポーツ推進審議会（以下「審議会」という。）には、副会長を務める逗子市陸上競技協会として参加している。

佐久間委員（挨拶）

神奈川県立逗子高等学校の校長を務める佐久間である。

宮川委員（挨拶）

審議会には逗子市体育協会の理事として参加している。種目としては少年野球（小1～小6）の指導をしている。

金子委員（挨拶）

神奈川県立体育センターの生涯スポーツ課の課長をしている。

事務局体制の紹介

前回議事録の承認

事務局

前回の議事録の承認をお願いします。

平成29年度第2回逗子市スポーツ推進審議会議事録について、すでに郵送で配付しているが、異議は無いか。

【異議なし】

事務局

異議なしということで、本議事録について承認することと決定した。

事務局

「逗子市スポーツ推進審議会に関する条例」第5条第3項に基づき、この後の進行は会長をお願いします。

【議事】

(1) 平成 29 年度逗子市スポーツ推進計画の評価調書について

会長

それでは、議題 1「平成 29 年度逗子市スポーツ推進計画の評価調書」について、事務局から説明をお願いします。

事務局

スポーツ推進審議会の委員の皆さまには、平成 29 年度の市のスポーツ推進に関する評価を行っていただく。昨年同様、一昨年の会議で認められた様式を使い、所管課の自己評価と各委員のご意見を列記したものを配付した。

お手元に配付した資料 4 をご覧いただきたい。

平成 29 年度の市のスポーツ推進に関する評価について、所管課の自己評価を記入したものを資料 2 として事前に送付し、事前に各委員のご意見をいただいた。それを書き加えたものが資料 4 となる。

本日の会議では、各委員の評価をご覧になり、さらに意見があればお出しいただきたい。

事務局

資料 4 について、1 事業ずつ説明するので、委員の皆さまのご意見をいただきたい。

(資料 4 「逗子市スポーツの祭典の開催」について説明)

会長

それでは、「逗子市スポーツの祭典の開催」について委員の皆さまのご意見をお聞きする。すでにご意見は出ているが、他の委員からの意見を踏まえてご意見をいただきたい。

金子委員

①②③は予定どおり進捗しているが、④を予定より遅れていると評価した理由は何かあるか。スポーツの祭典におけるパラリンピックといった面では、ガイドランナー脇 真由美氏の講演会及び体験会の実施や「ボッチャ」等、142 人が参加しており、順調と思われるところもある。

会長

そのような意見が出たということ、評価調書に反映させる。

日程（11 月 11 日（土）開催）が後から決まったため、逗子小学校及び池子小学校の避難所運営訓練と日程が重なった。日程調整は難しいが、参加者数も評価の対象となるので、2 地区の避難所運営訓練と日程が重なるのはもったいない。日程は前年度に調整する等、場づくり、交流づくりの工夫をしてほしい。

逗子は、神奈川県知事が率先して推進している「未病」を意識して実施している。逗子の高齢化率は県下でも上位に挙がり、手前味噌ながら、小規模な自治体である逗子において未病を意識して推進していることについて、神奈川県はどのように評価しているのか。

金子委員

未病に対する各市町村の取組みの評価までは知り得ていないが、逗子の体育館や市役所の中に未病センターが設置されているのは、取組みとして素晴らしい。

未病センターで保健師が運動を呼び掛けることでスポーツ推進につながっていき、そこで初めて我々が生きてくると考えている。未病センターからスポーツ推進へと連携する取組みは、県内では十分でないと感じられる。

ただし、逗子市は積極的に未病センターの取組みを推進しているので、未病センターからスポーツ推進への橋渡しが上手くいけば良いと感じている。

会長

逗子市スポーツ推進計画の基本目標にある「場づくり」、「交流づくり」、「基盤づくり」の中で、逗子市は率先して「健康づくり」に取り組んでいる。「健康づくり」を意識して実施することで、「場づくり」、「交流づくり」、「基盤づくり」へ自ずと繋がっていくと思う。

佐久間委員の務める逗子高校は地域の老人との交流等で地域に貢献しているが、高校の立場から見ると逗子はどのように見えるのか。

佐久間委員

体育館の改修工事の影響で2年前から逗子アリーナを利用するようになった。逗子高校の生徒の中で逗子市民は10%ほどであるが、運動部以外の者も逗子アリーナを利用することがあるので、身近に感じるようになった。特に、バスケットボール部は逗子アリーナを利用していたので、トレーニングルームや未病センターを見ているはずである。逗子アリーナや池子の森自然公園のテニスコートや400メートルトラックは、学校より施設が立派であるため、積極的に利用したい。

学校へのさらなる利用促進を図り、逗子高校以外の高校にも、スポーツの情報を提供してほしい。そうするとスポーツ施設がより身近なものになり、そこで未病センターやスポーツの祭典等の情報が提供されると、学校での掲示もできるので活用したい。特に、逗子高校ではテニスコートが充実していないため、ありがたい。

東京2020オリンピックのセーリング競技の会場が江の島である。逗子出身のアスリートがいるので、了解を取って積極的に宣伝したら盛り上がるのではないかと。

会長

審議会の評価について、幅広い年代層の市民が興味を抱くような内容であり、限られた予算の中で市を挙げて頑張っている中で、概ね満足の「B：予定どおり進捗」でいかがか。

また、④は謙遜せずに「予定どおり進捗」でも良いと思われる。

会長

審議会での評価は「B：予定どおり進捗。」でよろしいか。

【異議なし】

会長

次に「スポーツと健康づくりに関する情報の充実と提供」について、事務局から説明をお願いします。

事務局

(資料4「スポーツと健康づくりに関する情報の充実と提供」について説明)

会長

「スポーツと健康づくりに関する情報の充実と提供」の評価について、皆さまの意見をいただきたい。他の委員の方の意見を聞いた感想等でも良い。

活動は持続可能である方が良いが、一部の子ども会やスポーツ団体は継続が難しい時期があった。現在、子ども会を継続することが難しく、地区運動会に子ども会が参加できないこともある。そのためか、母親の縦と横のつながりが薄れてきて、情報が集まらなくなった。「小学生のためのスポーツ団体一覧」はそれを補完していると言える。

金子委員

平成29年度第2回の議事録を見ると、「沼間グリーンファイターズ」に6年生が1人入部したと聞いた。スポーツ団体の存在を知らないと入部しようがない。「小学生のためのスポーツ団体一覧」は、情報提供の役割を担っていると言える。

一方で指導者の派遣については、派遣する側と派遣を受ける側のニーズがマッチングしづらく、神奈川県との情報共有を進めて、より良い方法を模索する必要があるだろう。

どの市町村でも同じ課題を抱えているというのが率直な感想である。

宮川委員

今年は「沼間グリーンファイターズ」に6人も入部した。「小学生のためのスポーツ団体一覧」の効果が大きく表れている。

会長

「健康・体力相談」の参加人数が120人(前年度63人)に伸びているが、一番の原因は何であるか。

事務局

健康運動指導士の資格を持った職員の人数は変わらない。「健康・体力相談」の認知度が高まっていることが、理由の一つと言える。以前は参加人数も多くなかったが、平成28年度は月2回の実施であったが、現在は参加人数も多くなり随時予約制としている。

会長

生活実態に合わせた相談体制が創られている。健康志向も含めて、市民が健康に興味関心を抱いているということであり、周知と健康づくりの工夫が現れていると思われる。

事務局

先ほど未病センターの話題が出たが、市内の未病センターは市役所と逗子アリーナに設置されており、どちらかと言うと、市役所は健康面のサポート、逗子アリーナは運動面の

サポートをしている。

市役所の未病センターで運動を奨めたい人がいた場合は、逗子アリーナの未病センターに行くことを促す流れができています。

会長

逗子アリーナの未病センターを訪れる人には、初めから訪れる人と、市役所の未病センターで運動を奨められて訪れる人の、2パターンがあるというわけである。「健康づくり」のために、市は様々な窓口を設けていると言える。

金子委員

市役所の未病センターに配置されている職員はどのような人か。

事務局

国保健康課の職員で、保健師の資格を持つ職員が必ず1名は配置されている。

金子委員

保健師が必ずいるということがとても良い。そこから運動につながると、このような良い成果が現れてくる。

会長

市民の「健康づくり」に対する、市の関わり方が改善されている。取り組み始めた当初を考えると、未病センターの取組みは相当進んだと感じる。評価はBの中でも上位であり、B[○]を付けたいほどである。

佐久間委員

2月3日（土）及び4日（日）に、レスリングの関東高校選抜大会が逗子アリーナで開催された。第53回国民体育大会（かながわ・ゆめ国体）から始まり、逗子は「レスリングのまち」になりつつあるのではないかと感じる。全国高等学校総合体育大会（インターハイ）は横須賀で開催されたが、関東高校選抜大会は神奈川県で開催する際は逗子アリーナと会場が決まっている。逗子で開催したかながわ・ゆめ国体や関東高校選抜大会で活躍した選手が、指導者となって県内の様々な場所で指導している。

先日も、結果を出した高校生が逗子のキッズ出身であり、逗子のレスリングが地域に根差した競技に成長すると良い。また、オリンピック選手を輩出するまでには時間が掛かると思われるが、小中学生向けの専門的な指導者の宣伝をして、逗子からオリンピック選手を輩出するといった気持ちで、逗子は「レスリングのまち」であると多くの市民に知ってもらいたい。

会長

先日発行されたタウンニュースで、葉山のレスリングが出ていた。逗子のレスリングの宣伝について、工夫してほしい。

会長

審議会での評価は「B：予定どおり進捗。」でよろしいか。

【異議なし】

会長

次に「小・中学校を拠点とした子どもの健康・体力づくり」について、事務局から説明をお願いする。

事務局

(資料4「小・中学校を拠点とした子どもの健康・体力づくり」について説明)

会長

「小・中学校を拠点とした子どもの健康・体力づくり」の評価について、皆さまの意見をいただきたい。他の委員の方の意見を聞いた感想等でも良い。

①において、逗子中学校のバドミントン部で1名、指導者の派遣があったはずであるので確認してほしい。

事務局

平成28年度は、逗子中学校への指導者の派遣が1名あった。しかし、平成29年度の実績を学校教育課長に確認したところ、久木中学校と沼間中学校の2校しか派遣していないとの回答であった。

会長

同じ指導者がいたから、おそらく間違いない。バドミントン専門の教員が産休のため、バドミントン部に指導者が派遣されていたかと思われる。

佐久間委員

専門的に指導できる指導者の派遣は、学校にとってはありがたい。県立高校の教師はたくさんいるが、部活動の実技指導ができる人となると別の話である。強い部活においても、指導できる顧問が異動して、その後に指導が難しい顧問が入ると部活が衰退していく現状がある。人事の際に、高校から専門家を要望しても成立するわけではない。指導者派遣の制度があることは良い。

逗子高校では、平成29年度までバレーボールの実技指導ができる教員がいなかったが、平成30年度にバレーボールの実技指導ができる教員が異動してきて、生徒たちも水を得た魚のように一生懸命やっている。

神奈川県内には多くの教師がいると言っても、ニーズにマッチすることは難しい。職員数が限られた中では、指導者派遣の制度はありがたい。

今年、「スポーツ・フェスタ」を復活させて運動会のようなものを開催した。運動が得意な生徒と不得意な生徒がいるが、騎馬戦やリレーのバトンパスの際に思いがけないケガをする生徒が多かった。予想に反して、我々が子どもの頃と比較してケガが少ない。しかし、危険予知は経験して覚えるものであり、経験の少ない今の子どもたちは思いがけないこと

をやるので、小中学生の時から危険予知やケガの防止を含めて運動させると良い。

宮川委員

ケガをしないように指導することが大事である。

特に、飽きっぽい小学校低学年には、遊び半分を入れながら指導している。

会長

近年は、運動をする子と運動をしない子の二極化が激しい。

宮川委員

野球でもノックを受ける際にケガをする子どもが多い。危険予知をしていない。

会長

運動不足の解消や、子どもの「健康づくり」に対しての好循環を生み出すことが期待できる。

会長

審議会での評価は「B：予定どおり進捗。」でよろしいか。

【異議なし】

会長

次に「「うみかぜクラブ」の活動内容の充実」について、事務局から説明をお願いする。

事務局

(資料4「「うみかぜクラブ」の活動内容の充実」について説明)

会長

「「うみかぜクラブ」の活動内容の充実」の評価について、皆さまの意見をいただきたい。他の委員の方の意見を聞いた感想等でも良い。

金子委員

うみかぜクラブの自立に向けた課題はあると感じられるが、うみかぜクラブの規模が大きくなっていると聞いており、事業だけで運営費を賄うことには限界があるのではないか。行政の努力もあると思うが、うみかぜクラブにおいて協賛や連携をしてもらえる地元の企業を探す等の工夫が必要ではないか。

神奈川県でも同じ課題を抱えており、事業それ自体の外部委託や民間企業との連携へとシフトしているので、方向性は同じである。

会長

先日、逗子市体育協会の評議員会に参加した。うみかぜクラブの平成29年度延べ開催数は1,062回であり、参加者数も増加している。平成28年度は1回平均27.4人の参加者数であったが、平成29年度は平均30.4人である。

初めは、自らの健康のために市の施設を利用する際、なぜ利用料を払うのかと思っていました。しかし、受益者負担の考えでいくと、自らの健康が他力本願ではなく本当に健康を考えた時に、施設利用料や駐車場代は当然に払う金額であると思われる。市民にも、受益者負担の原則の考えは定着してきている。

逗子市体育協会は公益財団法人であるので、過大な利益を出してはいけません。利益の多くを市民に還元しているのです。未病センターを民間と連携して実施する等、逗子独自の「健康づくり」を生み出せるのではないかと。「健康体操」の参加者数が増加していることはチャンスであり、そこにヒントがあると思われる。

宮川委員

1回当たりの平均参加者数が増加していることは胸を張って良い。

佐久間委員

高齢者にとって一番怖いことは歩けなくなることであり、同じ年齢でも普通に歩ける人と車イスでしか動けない人がいる。逗子はコンパクトな人口規模であるからか、高齢者がよく運動しており、運動に対する意識・意欲が高い。そのため、自ら参加できる場が提供されるとありがたい。

受益者負担は当たり前で、どの施設でもお金が掛かる。医療でもサービスでもお金は掛かるので、受益者負担の意識は多くの人を持っているはずである。今は健康のためにお金を払う時代であるので、安価な方が良いが、高齢者の負担にならない金額であれば良い。

会長

チャレンジデーの参加率よりも胸を張って出せる数字である。

会長

審議会での評価は「B：予定どおり進捗。」でよろしいか。

【異議なし】

会長

事務局は、提出された委員の意見と今日新たに出た意見を基に、評価調書の本書に記す審議会の意見のまとめ案を作成してほしい。

今後の流れについて、事務局から説明をお願いします。

事務局

本日の意見をもとに、平成29年度スポーツ推進計画評価調書の審議会の意見のまとめ案を事務局で作成し、次回（第2回）会議までに事前送付する。

第2回会議では、まとめ案について意見をいただき、加筆修正の後、委員の皆さまの最終確認後、確定とする。

確定した評価調書は、今年度末までに、教育長に報告する。

(2) 平成 30 年度逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書に関する意見聴取について
会長

次に、議題 2 の「平成 30 年度逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書に関する意見聴取」について、事務局から説明をお願いします。

事務局

資料 3 及び参考資料 5～6 をご覧いただきたい。

逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書では、逗子市総合計画実施計画の目標と、それに対しての昨年度の取り組みが記載されている。

点検・評価に関する報告書は教育委員会において取りまとめられ、市教育委員会 9 月定例会において承認を得た後、平成 30 年度市議会第 4 回定例会で報告する予定である。

平成 29 年度の取り組みにおける「実績」「自己評価」「今後の課題と取り組みの方向性」について、所管課の自己評価を記入したので、委員の皆さまには所管課の自己評価に対する評価をいただきたい。

外部評価について、昨年度まではうみかぜクラブ事業を除く 3 事業を、スポーツを楽しむまち逗子推進懇話会において評価していただいていたが、評価は条例設置の審議会で実施すべきとの意見があったため、今年度から逗子市スポーツ推進審議会において評価していただく。

なお、逗子市総合計画実施計画の目標における「目標【2022 年度】」「現状【2013 年度末】」「補足」「現況・課題」「取り組み」及び、平成 29 年度の取り組みにおける「主な事業名」「当該事業内容」は変更できないので、あくまで今回は、所管課の自己評価に対して評価していただきたい。

また、自己評価における「順調であるとはみなせない」「計画の見直しにより、達成していない」は、「目標【2022 年度】」に対しての所管課の自己評価であり、変更することは難しい。ただし、それぞれの事業における努力等は十分承知しており、数値には表れないアナログ的な努力等を考慮して評価してもらえると大変助かる。

参考資料 6 は、基幹計画の進捗を評価する事業進行管理表であり、毎年スポーツを楽しむまち逗子推進懇話会において評価していただいている。その懇話会において出た意見も記載されているので、参考にしてほしい。

事務局

それぞれの事業について、平成 29 年度の取り組みを説明する。

まず初めに、「スポーツ推進事業（逗子市スポーツの祭典）」についてである。

（「スポーツ推進事業（逗子市スポーツの祭典）」について説明）

会長

「スポーツ推進事業（逗子市スポーツの祭典）」の評価について、皆さまの意見をいただきたい。

金子委員

平成 28 年度の参加者数は延べ 2,413 人であり、平成 29 年度は 1,644 人である。開催日が他の事業と重なっていたといった意見も出ているが、平成 28 年度の参加者数が延べ 2,413 人であるのに、目標を 5,000 人に設定した理由と算定基準を教えてください。

1 日開催ではなく 1 週間や長期間の開催にすれば、目標の達成は十分可能だと思われませんが、5,000 人という数値を考えると 1 日開催では厳しい。

神奈川県において、延べ人数でも 4,000 人が限度である。

会長

1 日開催では、目標の達成は無理である。

佐久間委員

神奈川県では月間（県民スポーツ月間）で実施しており、あらかじめどのようなイベントがあるのか調査がある。

会長

スポーツの祭典月間とするならば、各競技団体からの報告制にすれば良い。競技団体の活動の中で、体験参加の人や見学の人参加者数としてカウントしてもらい、ホームページにスポーツの祭典月間における団体の活動内容及び参加者数を掲載すれば良い。そうすれば、延べ 5,000 人の目標は容易に達成できるだろう。

また、ホームページに活動内容と場所を掲載すれば、興味のある活動にまたがって参加する人もいるだろう。

宮川委員

9 月頭に開催するスポーツ少年団の運動会にも参加者が集まるからカウントすれば良い。

金子委員

スポーツの祭典月間に活動するなら後援すると言うと、活動に「スポーツの祭典月間」という冠を付ける流れになる。

「逗子市スポーツの祭典事業」と銘打ってもらい、カウントする方法が一番確実である。

会長

スポーツの祭典月間に逗子市の目玉の未病対策を入れて、医師会（逗葉医師会等）等を巻き込めば、全体で健康月間のような形になる。予算が無くても、工夫次第で大きく拡がりを持つだろう。

会長

次に「スポーツ推進事業（スポーツ支援体制の充実）」について、事務局から説明をお願い

いする。

事務局

（「スポーツ推進事業（スポーツ支援体制の充実）」について説明）

会長

2013年度のスポーツ実施率（成人、週1回以上）は、62.8%である。補足の中では、文科省のスポーツ実施率が58.7%ということなので、逗子市を見ると現状高い数値であり、全国平均より高いとの認識で良いか。

事務局

2013年度の調査では、全国平均58.7%に対して逗子市62.8%と上回っていたが、2017年度の調査では逗子市は57.0%と減少してしまった。

会長

減少した理由は事務局で分析しているのか。また、調査の手法を教えてほしい。

事務局

調査結果は、企画課が実施する「平成29年度逗子のまちづくりに関するアンケート調査」から引用している。

会長

未病対策やうみかぜクラブの取組みが充実しているにも関わらず、調査では減少しているのは不思議である。

スポーツに関するアンケートの捉え方として、スポーツには「する」「観る」「支える」人が重視されているため、スポーツを実施するだけでなく、観ることでスポーツ参加と言えるのではないか。

アンケートの捉え方が2013年度と異なっている可能性も考えられる。同一のアンケートでも、時代背景が異なると健康に対する見方も異なるので、アンケート結果のみで評価することには危険性がある。

金子委員

神奈川県としては、58.7%でも57.0%でも素晴らしいと思う。

スポーツの捉え方や概念は変わりつつある。オリンピック種目にチェスが入ることも検討されており、「スポーツ」に該当する種目が明記されている補助資料があれば、アンケートの際に分かりやすいと思われる。

会長

孫が通う小学校の運動会に見に行く、孫が通うスイミングの送り迎えをする等、高齢者にとって、子どものスポーツ活動についていっただけでもスポーツ参加になるのではないか。

そうすると、子どもが積極的にスポーツに参加することで、ひいては大人や高齢者のスポーツ参加につながっていく。

宮川委員

親と子どもと一緒にやるソフトボール大会では、大人も子どもも大変楽しんでおり、ス

スポーツ参加に対する好ましい相乗効果がある。

会長

スポーツの捉え方について、内側から浸透することも重要である。

ある日の朝だけを見ても、5時台から散歩している人がいて、6時になるとストレッチや逗子海岸でヨガ、6時半になるとラジオ体操、月1回の「海岸を走る会」の活動も夏は7時にスタートする等、そのような人たちをスポーツ参加として入れると、目標（66.7%）は無理ではない数字である。

逗子の強い健康志向を考えると高く評価すべきであり、評価としては可能性を秘めた順調であると思われる。しかし、高齢社会の解決に向けた準備段階の取組みには課題がある。

点検・評価に関する報告書は、外部に公開されるのか。評価が「順調であるとはみなせない」ばかりであると、モチベーションにも影響してくる。

事務局

外部に公開されるものではないが、議会には報告される。

佐久間委員

スポーツは「人」に支えられており、充実度は簡単には図れない。○か×かではなく、アンケート等で具体的な意見を拾うと、批判も出てくるが実感につながる。数字にならない声は大事である。

特に教育関係の立場として、成果の有無や数字の達成等に縛られると何も動けなくなるので、そのことだけに終始しないでほしい。

宮川委員

将来のある子どもが参加していることは大変な成果である。

会長

次に「うみかぜクラブの運営事業」について、事務局から説明をお願いする。

事務局

「主な事業名」が、「逗子市体育協会の自主事業のため市の事業名はない」となっているが、これはうみかぜクラブの運営事業について評価をいただくものになる。

（「逗子市体育協会の自主事業のため市の事業名はない（うみかぜクラブの運営事業）」について説明）

会長

「うみかぜクラブの運営事業」の評価について、皆さまの意見をいただきたい。

逗子において、高齢者は何歳以上か。

事務局

65歳以上である。

会長

2022年度までの65歳以上人口の伸び率を出してほしい。うみかぜクラブの60歳以上の登録者数と65歳以上人口との比率を過去から年度ごとに明らかにし、将来予想を立てれば、会員登録数が1,000件になるまでの道筋がある程度見えると思われる。

他には、東京2020オリンピック・パラリンピックに関連したきっかけ作りに取り組むと新規層が発掘できると思われる。

「順調であるとみなせない」が数値を基準にしているならば、逗子市の年代別人口や増加率等、数値的に対応する必要がある。数値的に見ることは、未病にもつながる。

金子委員

数値的に見る方向性は良いが、データを操作すると数値が表す目的が不明瞭になることもあるので、多重比較は必要である。

事務局

神奈川県では、高齢者の捉え方はバラバラであるのか。

金子委員

分析の際は、高齢者を何歳以上と定義付けることが多い。

会長

登録者数859件という数字は立派である。

金子委員

登録者数の増減の幅が大きいことは懸念である。

登録の更新年を単年度ではなく、2年ごとや4年ごととしたら、増減の幅が少なくなるのではないか。単年度更新だと登録者数の増減幅が大きくなるので、2年更新制にすると、登録者数を確保できるのではないか。

事務局

現実問題として、年度の切替時期に登録者数が減少し、時間が経つとともに登録者数が回復していくという流れである。

会長

未病センターが設置されていることは逗子の強みである。未病センターに関連したコマースシャルをしてもらおうと良い。

金子委員

開催メニュー数は減少したにも関わらず、参加者数がほとんど減少していないのは強みである。運動に対する意識の高さが表れている。

会長

決して、逗子の健康志向のモチベーションは下がっていない。あくまで、捉え方の問題である。工夫次第で対処できるのではないか。

会長

次に「公園内有料運動施設運営事業」について、事務局から説明をお願いする。

事務局

（「公園内有料運動施設運営事業」について説明）

会長

「公園内有料運動施設運営事業」の評価について、皆さまの意見をいただきたい。

第一運動公園の弓道場において、矢が防矢ネットを超えて飛び越えてしまった案件があったが、対策はできているのか。

事務局

防矢ネットの上を飛び越えてしまったので、防矢ネットをさらに高くして、矢が飛び越えないようにした。

会長

池子の森自然公園について、希少動物が確認されたことについては、仕方がない。

金子委員

池子の森自然公園はレアケースである。米海軍の施設を一般の人に貸し出している例は、他にあまりない。

市民の利用拡大について、アーチェリー場の整備予定地での整備が中止となったので、弓道場と併用するとなった時に、距離が異なることが問題となる。弓道は28m、アーチェリーは長いものだと45m以上であり、調整は難しい。

会長

池子の森自然公園は元々、体育館やグラウンド等、多様なスポーツ施設が建設される構想であった。

以前、アーチェリー場の整備に関する説明会に出席した際に、自然や環境に関する団体が大勢参加していたため、アーチェリー場の整備は難しい。計画の見直しについては、希少動物が確認され、自然保護の観点から止むを得ない。

事務局

参考資料6をご覧くださいと分かるように、スポーツを楽しむまち逗子推進懇話会においても、様々な意見が出ている。また、審議会では初めて出る話題である。

変更できないことについて、柔軟性が無い、計画を見直しできる要素を残した方が良い等の意見も出ている。

点検・評価に関する報告書について、審議会で一定の評価をするのが狙いであるため、ご意見を出してもらえると助かる。

会長

事務局は、本日出た委員の意見を基に、外部評価（案）を作成していただきたい。
今後の流れについて、事務局から説明をお願いします。

事務局

本日の意見をもとに、平成 30 年度逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書の外部評価（案）を事務局で作成し送付する。

外部評価（案）について意見をいただき、加筆修正の後、委員の皆さまの最終確認後、確定する。

確定した点検・評価に関する報告書は、8 月 20 日（月）までに、教育委員会に報告する。評価調書に比べて締切が早いため、メール等でのやりとりとなってしまうこと、ご了承ください。

会長

次に、議題 3 の「その他」について、この場で何か連絡したい方はいるか。

【特になし】

会長

以上で本日の議事は終了した。以上で「平成 30 年度第 1 回逗子市スポーツ推進審議会」を閉会する。

事務局

次回の審議会は、11 月を予定している。詳細な日程については、後日調整する。

◇◇◇終了◇◇◇

以上